

調査票丙（大学等）における研究補助者等のFTE把握について

1 課題の内容

大学等における研究関係従業者のうち、「研究補助者」、「技能者」及び「研究事務その他の関係者」について、FTEベースによる把握の要望があるため、把握方法について検討する。

2 検討の方向性

現行調査において、調査票甲（企業）及び調査票乙（非営利団体・公的機関）では、「研究補助者」、「技能者」及び「研究事務その他の関係者」について、それぞれ「実際に研究関係業務に従事した割合であん分した値」（以下「FTE値」という。）を調査していることから、調査票丙（大学等）でも同様の調査票形式で把握することが考えられる。

【現行の調査票（調査票甲（企業）及び調査票乙（非営利団体・公的機関））】

	実数		実際に研究関係業務に従事した割合であん分した値
		うち女性	
総数	人	人	—
研究者	人	人	—
専ら研究に従事する者	人	人	—
研究を兼務する者	人	人	人
研究補助者	人	人	人
技能者	人	人	人
研究事務その他の関係者	人	人	人

研究者のうち博士号取得者	人	人
--------------	---	---

【現行の調査票（調査票丙（大学等））】

	実数	
		うち女性
研究関係従業者数の合計	人	人
研究者	人	人
本務者	人	人
教員	人	人
大学院博士課程の在籍者	人	人
医局員	人	人
その他の研究員	人	人
兼務者（学外からの研究者）	人	人
研究補助者	人	人
技能者	人	人
研究事務その他の関係者	人	人

本務者のうち博士号取得者	人	人
--------------	---	---

任期無し研究者	人	人
うち40歳未満	人	人

研究以外の業務に従事する従業者	人
-----------------	---

【変更案（調査票丙（大学等））】

		実数		実際に研究関係業務 に従事した割合で あん分した値
			うち女性	
研究関係従業者数の合計		人	人	—
研究者	本務者	人	人	—
	教員	人	人	—
	大学院博士課程の在籍者	人	人	—
	医局員	人	人	—
	その他の研究員	人	人	—
	兼務者（学外からの研究者）	人	人	—
研究補助者		人	人	人
技能者		人	人	人
研究事務その他の関係者		人	人	人

本務者のうち博士号取得者	人	人
--------------	---	---

任期無し研究者	人	人
うち40歳未満	人	人

研究以外の業務に従事する従業者	人
-----------------	---

3 把握方法の変更に伴う留意事項

現行の調査では、従業者数の記入方法について、「調査票記入上の注意」で「研究事務」と「研究以外の事務」を兼務する者については「研究事務その他の関係者」と「研究以外の業務に従事する従業者」にそれぞれあん分して記入するよう案内している。そのため、実質的に「研究事務その他の関係者」と「研究以外の業務に従事する従業者」は「FTE値」を調査している。これは「研究事務その他の関係者」と「研究以外の業務に従事する従業者」の「実数」をそれぞれ把握する際の重複を避けるためである。

今回、新たに「研究事務その他の関係者」の「実数」と「FTE値」を把握することに伴い「研究事務その他の関係者」と「研究以外の業務に従事する従業者」の「実数」の把握方法を変更する。

具体的には「研究事務」に少しでも関わる者は「研究事務その他の関係者」の「実数」とし「研究事務」には一切関わらず「研究以外の事務」のみに関わる者を「研究以外の業務に従事する従業者」の「実数」とする。

この把握方法の変更により、現行の結果と把握方法変更後の結果の関係が次のように変わるため、時系列比較する際には注意が必要である。

例)「研究事務」専従者5人、「研究以外の事務」専従者13人、兼務者10人で「研究事務」と「研究以外の事務」の割合が7：3の場合

現行の把握方法

	実数
研究事務その他の関係者	12人
研究以外の業務に従事する従業者	16人

変更後の把握方法

	実数	F T E 値
研究事務その他の関係者	15人	12人
研究以外の業務に従事する従業者	13人	

※ 研究事務その他の関係者の「実数」－「F T E 値」＝3人

現行の「研究事務その他の関係者」の「実数」(12人)と
変更後の「研究事務その他の関係者」の「F T E 値」(12人)が一致…上記破線囲い部分

現行の「研究以外の業務に従事する従業者」の「実数」(16人)と
変更後の「研究以外の業務に従事する従業者」の「実数」(13人)に変更後の「研究事務その他の関係者」の「実数」－「F T E 値」(15人－12人＝3人)を足した人数(16人)が一致…上記網掛け部分

4 ヒアリング

大学等において、「研究補助者」、「技能者」及び「研究事務その他の関係者」各区分の「実数」と「実際に研究関係業務に従事した割合であん分した値」をそれぞれ把握すること及び「研究事務その他の関係者」と「研究以外の業務に従事する従業者」の「実数」の把握方法を変更することが可能か客体にヒアリングを行う。

ヒアリング内容

問 1 「研究補助者」、「技能者」及び「研究事務その他の関係者」について、現在ご回答いただいている「実数」に加え、新たに「実際に研究関係業務に従事した割合であん分した値」を把握することを考えています。それぞれ、以下に記載のとおり回答していただくこととなりますが、回答が可能かお聞かせください。

また、今回の変更に伴い、「研究事務」と「研究以外の事務」を兼務する場合の「研究事務その他の関係者」と「研究以外の業務に従事する従業者」への回答方法も変更となっております。こちらの変更も考慮し、回答の可能性をお聞かせください。

(回答を○で囲んで下さい。)

【現行の調査票】

		実数	
			うち女性
研究関係従業者数の合計		人	人
研究者	本務者	人	人
	教員	人	人
	大学院博士課程の在籍者	人	人
	医局員	人	人
	その他の研究員	人	人
	兼務者（学外からの研究者）	人	人
研究補助者		人	人
技能者		人	人
研究事務その他の関係者		人	人
本務者のうち博士号取得者		人	人
任期無し研究者		人	人
うち40歳未満		人	人
研究以外の業務に従事する従業者		人	

【変更案】

		実数		実際に研究関係業務 に従事した割合で あん分した値
			うち女性	
研究関係従業者数の合計		人	人	—
研究者	本務者	人	人	—
	教員	人	人	—
	大学院博士課程の在籍者	人	人	—
	医局員	人	人	—
	その他の研究員	人	人	—
	兼務者（学外からの研究者）	人	人	—
研究補助者		人	人	人
技能者		人	人	人
研究事務その他の関係者		人	人	人
本務者のうち博士号取得者		人	人	
任期無し研究者		人	人	
うち40歳未満		人	人	
研究以外の業務に従事する従業者		人		

「実数」と「実際に研究関係業務に従事した割合であん分した値」の記入方法

- ・「実際に研究関係業務に従事した割合であん分した値」は「実数」に、業務のうち研究関係業務に従事した時間の割合を乗じた人数を記入してください。
- ・「実際に研究関係業務に従事した割合であん分した値」の記入に当たって、研究関係業務に従事した時間が個人単位で把握出来ない場合は、組織の単位ごとの見積りにより計算してください。
あん分比率が実数に対して 100%の場合も実数と同じ値を必ず記入してください。

- ・週の特定期勤務の者、短時間勤務の者の「実際に研究関係業務に従事した割合」については、通常の勤務形態に対する割合も考慮して計算してください。

例えば、週 5 日 8 時間勤務を通常の勤務形態とする場合、週 4 日 4 時間勤務で研究関係業務に専念している研究補助者の「実際に研究関係業務に従事した割合」は、 $(4 \text{ 日} \times 4 \text{ 時間}) \div (5 \text{ 日} \times 8 \text{ 時間}) = 0.4$ としてください。

「研究事務」と「研究以外の事務」を兼務する者の記入方法

- ・「研究事務」と「研究以外の事務」を兼務する者は全て「研究事務その他の関係者」としてください。「研究以外の業務に従事する従業者」に記入する者は、一切「研究業務」に関わらない者となります。

調査票記入イメージ

		実数		実際に研究関係業務 に従事した割合で あん分した値
			うち女性	
研究関係従業者数の合計		人	人	—
研究者	本務者	人	人	—
	教員	人	人	—
	大学院博士課程の在籍者	人	人	—
	医局員	人	人	—
	その他の研究員	人	人	—
	兼務者（学外からの研究者）	人	人	—
研究補助者		2人	人	1人
技能者		3人	人	0人
研究事務その他の関係者		15人	人	12人

本務者のうち博士号取得者	人	人
--------------	---	---

任期無し研究者	人	人
うち40歳未満	人	人

研究以外の業務に従事する従業者	13人
-----------------	-----

業務のうち研究関係業務に従事した時間の割合に相当する人数を記入します。

例えば、研究補助者が2人いて、実際に研究関係業務に従事した時間の割合をみると、1人が6割で、他の1人が4割の場合は、 $(1人 \times 0.6) + (1人 \times 0.4) = 1人$ と記入します。

技能者が3人いて、実際に研究関係業務に従事した時間をみると、1人が2割で、他の2人が1割の場合は、 $(1人 \times 0.2) + (2人 \times 0.1) = 0.4 \div 0人$ と記入します。

※ 四捨五入した数値が0になった場合は0を記入します。

「研究事務」と「研究以外の事務」を兼務している者については、一律「研究事務その他の関係者」として記入し、業務のうち研究関係業務に従事した時間の割合に相当する人数を「実際に研究関係業務に従事した割合であん分した値」として記入します。

例えば、学部事務局に庶務・経理関係の職員が28人いて、5人は研究室に関係する事務の処理に従事、13人は研究室とは関係ない事務の処理に従事、10人はおおむね勤務時間の7割程度を研究室に関係する事務の処理にあてている場合。

5人+10人=15人→研究事務その他の関係者 15人

5人+ $(10人 \times 0.7) = 12人$ →研究事務その他の関係者の実際に研究関係業務に従事した割合であん分した値 12人

研究以外の業務に従事する従業者 13人

【回答】

1：「実際に研究関係業務に従事した割合」の回答は可能 ⇒ 問2へ

2：「実際に研究関係業務に従事した割合」の回答は難しい ⇒ 問3へ

問2 「研究補助者」、「技能者」及び「研究事務その他の関係者」それぞれの「実数」と「実際に研究関係業務に従事した割合」の回答は可能とのことですが、調査票記入担当者様において、「実際に研究関係業務に従事した割合」は把握しておりますでしょうか。（回答を○で囲んで下さい。）

【回答】

1：調査票記入担当者で「実際に研究関係業務に従事した割合」を把握している

2：調査票記入担当者で「実際に研究関係業務に従事した割合」を把握していない ⇒ **更問へ**

更問 調査票記入担当者様で「実際に研究関係業務に従事した割合」を把握していないとのことですが、調査票記入に当たって、どのように把握する予定かお聞かせください。

【回答】

問3 「研究補助者」、「技能者」及び「研究事務その他の関係者」それぞれの「実数」と「実際に研究関係業務に従事した割合」の回答は難しいとのことですが、理由をお聞かせください。

【回答】